

2017年11月2日
日本板硝子株式会社

2018年3月期 第2四半期決算に関する主なご質問

Q: 上期は予想よりも上振れしたが、通期業績予想を変えないのはなぜか？

A: 上期に一過性の利益が含まれていたことや、地域や事業により改善速度に差があることから、総合的に検討の結果、通期業績予想は変更なしとしました。

Q: 営業利益差異分析の中で「コストダウン/その他」に含まれる為替影響額は？

A: 通貨によって円安や円高に動いており、トータルすると為替影響はそれほど大きくありません。

Q: フリーキャッシュフローについて、期初に今年度は100億円以上を目標、と言っていたが変更はないか？

来期以降フリーキャッシュフロー創出は加速するのか？設備投資との関係は？

A: 目標に変更はありません。来期以降はMTPに沿ってフリーキャッシュフローの創出を拡大する計画です。設備投資は引き続き償却費の範囲内で進める予定です。

Q: 自動車用ガラス事業が前四半期対比で改善率が高くない理由は？VA化の貢献はどの程度か？

A: 季節的要因が主です。例年第2四半期は、欧州・北米では自動車メーカーの夏季休暇の時期にあたり、下期にかけて改善する見込みです。全世界でならずと、自動車用ガラス事業の改善の50%が生産性改善、残り50%がVA化による売上ミックスの改善です。

Q: 自動車用ガラスのプレス加工は競合他社も進めているが、他社に秀でていると考える理由は？

A: 当社製品の採用は堅調で、お客様からも技術を認めていただいております。また自社開発の製法であり、長年の実績があるところは強みであり、今後とも技術を磨いてまいります。

Q: 自動車のサイドガラスに合わせガラスが採用されているとのことだが、地域差は？

A: サイドの合わせガラスは、遮音と安全性の要請にこたえるものです。全体に増えていますが特に浸透しているのは欧州で、日本や中国でも増えてきています。米国はまだ初期的な段階です。今後は世界的に普及すると考えております。カーメーカー、車種によって採用状況は多様です。

Q: 建築用ガラスや高機能ガラスのVA化の状況は? グループ全体のVA比率50%以上は達成可能か?

A: 北米の建築用ガラス事業が一番進化したモデル。ソーラー用ガラスや各種コーティングガラス。熱線反射、導電性など多様な機能がつけられています。また調光ガラスや高透過ガラスなども増加しており、このような商品が増えれば、50%以上は達成可能なものとみております。

Q: 高機能ガラス事業の営業利益大幅改善の要因は?

A: 全サブセグメントで改善がありました。ディスプレイ事業ではコスト削減の効果が大きいですが、一部製品には価格上昇もありました。グラスコードは中国・アジアが好調。バッテリーセパレーターは引き続きISS用途を含め需要好調。また、第2四半期に有形固定資産売却益として、数億円の計上がありました。

Q: 高機能ガラスの今後の成長の見込みは?

A: タイミングベルト用のグラスコードやバッテリーセパレーターは引き続き需要堅調で伸びていくものと考えています。レンズは、プリンターがピークアウトするため、現状維持方向。その一方で新商品の開発に注力しています。ディスプレイでは、モバイル端末用途は競争が激しく、今後は大面積化する車載用や、デジタルサイネージで拡大の余地があります。高機能ガラス事業全体では成長すると考えております。

Q: 自動車用途で glanova®成功の可能性は?

A: 競合品よりもコスト競争力があります。自動車用ガラスに必要な曲げ加工がしやすいという特徴もあります。また自動車用ガラス製造の長い経験も強みです。

以上

当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提のもとについており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場（欧州、日本、北米、アジア等）の経済環境及び製品需給の変動、為替相場の変動等があります。